

発表事項

- 1 令和元事業年度事業状況及び決算
 - (1) 一般会計
 - (2) 前期高齢者特別会計等
- 2 令和2事業年度一般会計収入支出予算変更
- 3 法改正に伴う支払基金定款の一部変更及び社会保障・税番号制度会計収入支出予算変更
- 4 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う報告事項
 - (1) 政府の緊急事態宣言による基金業務への影響
 - (2) 令和2年5月診療分の診療報酬等概算前払の実施状況
- 5 介護納付金の算定に係る新たな業務手順の作成

6 令和元年度の診療報酬等確定状況（平成31年4月～令和2年3月診療分）

- 7 令和元年度の審査状況（令和元年5月～令和2年4月審査分）
- 8 令和2年4月審査分の審査状況
- 9 令和元年度の特別審査委員会の取扱状況（令和元年5月～令和2年4月審査分）
- 10 令和2年6月審査分の特別審査委員会取扱状況
- 11 本部監事監査結果報告
- 12 令和2年度第2期（5月）分の後期高齢者支援金等収納状況

確定件数 –平成29～令和元年度– ～全国計～

単位：万件

■ 制度別	29年度	30年度		令和元年度	
			前年度増減率		前年度増減率
医療保険	89,879 (82.2%)	91,841 (81.6%)	+2.2%	92,712 (80.7%)	+0.9%
各法	19,458 (17.8%)	20,744 (18.4%)	+6.6%	22,242 (19.3%)	+7.2%
総計	109,337 (100.0%)	112,585 (100.0%)	+3.0%	114,954 (100.0%)	+2.1%

■ 診療種別	29年度	30年度		令和元年度	
			前年度増減率		前年度増減率
医科	58,631 (53.6%)	60,035 (53.3%)	+2.4%	60,852 (52.9%)	+1.4%
歯科	14,048 (12.8%)	14,571 (12.9%)	+3.7%	15,270 (13.3%)	+4.8%
調剤	36,525 (33.4%)	37,822 (33.6%)	+3.6%	38,650 (33.6%)	+2.2%
(再掲)食事・生活	841	837	▲0.4%	837	▲0.1%
訪問看護	133 (0.1%)	158 (0.1%)	+18.3%	181 (0.2%)	+14.9%
総計	109,337 (100.0%)	112,585 (100.0%)	+3.0%	114,954 (100.0%)	+2.1%

- 1) ()の数値は構成割合である。
- 2) 「食事・生活」については、医科・歯科における入院のうち入院時食事療養費又は入院時生活療養費が算定された件数である。
- 3) 平日の日数は、平成30年度が292日、令和元年度が290日で、影響度は▲0.7%である。
- 4) 被用者保険の加入者数を対前年同期と比べると、平成30年4月～12月平均では0.7%増であったが、令和元年4月～12月では0.4%増であった。
- 5) 端数整理上、合計が一致しない場合がある。以下同じ。

確定金額 - 平成29～令和元年度 - ～全国計～

単位：億円

■ 制度別	29年度	30年度		令和元年度	
			前年度増減率		前年度増減率
医療保険	97,573 (79.3%)	99,768 (79.5%)	+2.2%	103,251 (79.6%)	+3.5%
各法	25,408 (20.7%)	25,677 (20.5%)	+1.1%	26,491 (20.4%)	+3.2%
総計	122,981 (100.0%)	125,445 (100.0%)	+2.0%	129,742 (100.0%)	+3.4%

■ 診療種別	29年度	30年度		令和元年度	
			前年度増減率		前年度増減率
医科	86,178 (70.1%)	88,517 (70.6%)	+2.7%	91,128 (70.2%)	+2.9%
歯科	11,305 (9.2%)	11,636 (9.3%)	+2.9%	12,015 (9.3%)	+3.3%
調剤	23,637 (19.2%)	23,436 (18.7%)	▲0.8%	24,611 (19.0%)	+5.0%
食事・生活	1,185 (1.0%)	1,045 (0.8%)	▲11.8%	1,038 (0.8%)	▲0.7%
訪問看護	677 (0.6%)	810 (0.6%)	+19.7%	949 (0.7%)	+17.2%
総計	122,981 (100.0%)	125,445 (100.0%)	+2.0%	129,742 (100.0%)	+3.4%

注) () の数値は構成割合である。

確定状況及び診療諸率 - 令和元年度 - ～全国計～

医療保険

	合計	医科入院	医科入院外	歯科	調剤	訪問看護
確定件数（万件）	92,712 (+0.9%)	700 (▲0.1%)	48,388 (+0.2%)	13,166 (+3.6%)	30,397 (+1.1%)	61 (+13.8%)
日数（万日）	95,921 (▲0.2%)	6,388 (▲0.6%)	67,628 (▲0.6%)	21,536 (+1.1%)	36,497 (+0.3%)	369 (+13.9%)
点数（百万点）	1,338,133 (+3.2%)	365,969 (+2.4%)	545,615 (+2.8%)	153,784 (+3.0%)	268,417 (+5.1%)	4,348 (+14.4%)
確定金額（億円）	103,251 (+3.5%)	31,442 (+2.7%)	40,870 (+3.3%)	10,914 (+3.0%)	19,704 (+5.5%)	321 (+14.5%)
1件当たり点数	1,443 (+2.2%)	52,315 (+2.5%)	1,128 (+2.6%)	1,168 (▲0.5%)	883 (+4.0%)	7,159 (+0.6%)
1件当たり日数	1.03 (▲1.1%)	9.13 (▲0.5%)	1.40 (▲0.8%)	1.64 (▲2.4%)	1.20 (▲0.8%)	6.08 (+0.1%)
1日当たり点数	1,395 (+3.4%)	5,729 (+3.0%)	807 (+3.4%)	714 (+1.9%)	735 (+4.8%)	1,178 (+0.4%)

1) ()内は対前年度増減率である。

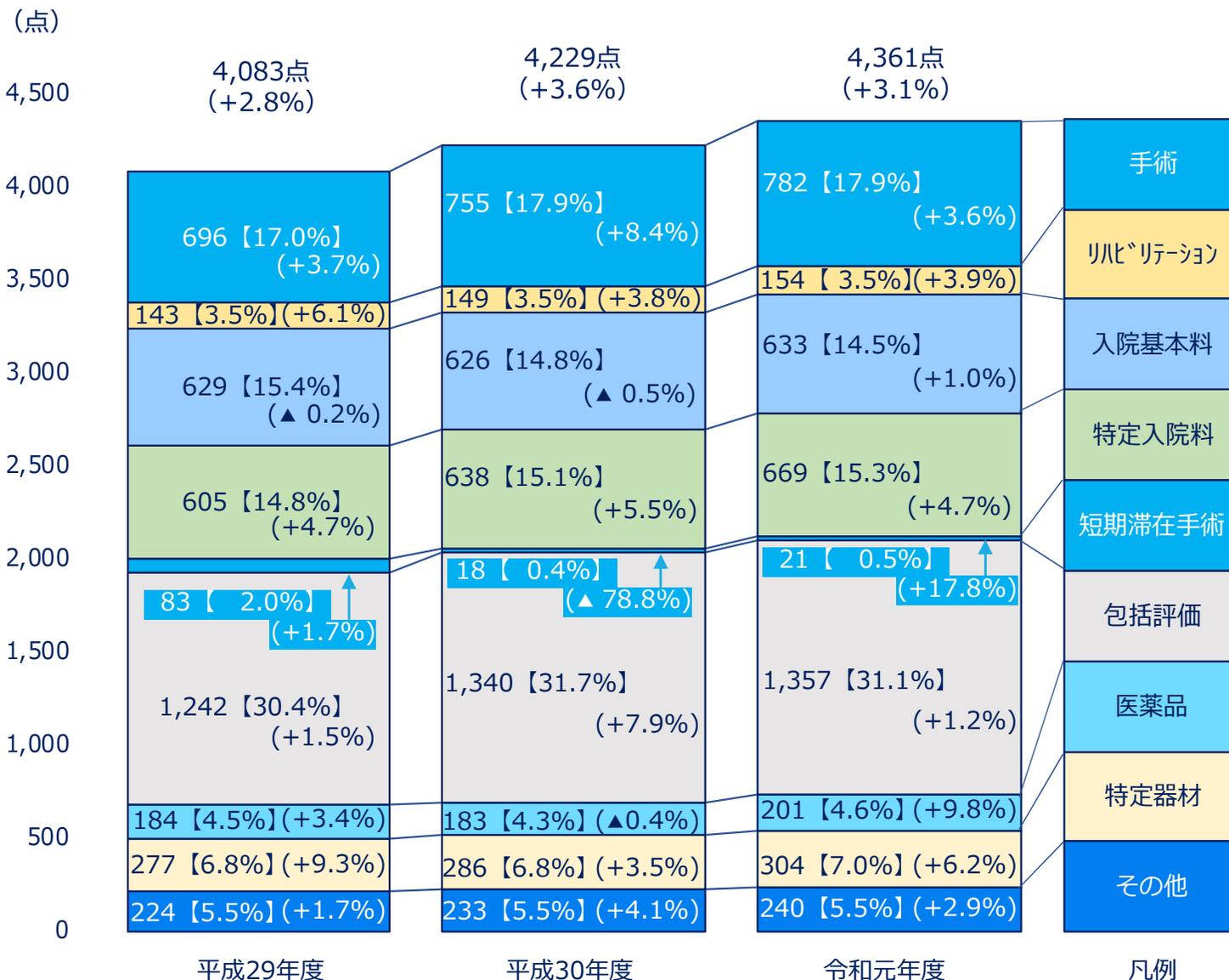
2) 点数欄の数値には、食事・生活療養費及び訪問看護療養費を点数換算した数値を含む。

3) 確定金額欄の数値には、食事・生活療養費の金額を含む。

診療行為大分類の推移 ～電子レセプト 1日当たり点数～

医科入院

【 】内の数値は構成割合
 ()内の数値は対前年度増減率



令和元年度における主な増減要因

【入院基本料】 【特定入院料】の増加
 令和元年10月の消費税率引上げに伴う所定点数引上げの影響（例：一般病棟入院基本料 急性期一般入院料1 1,591点→1,650点）

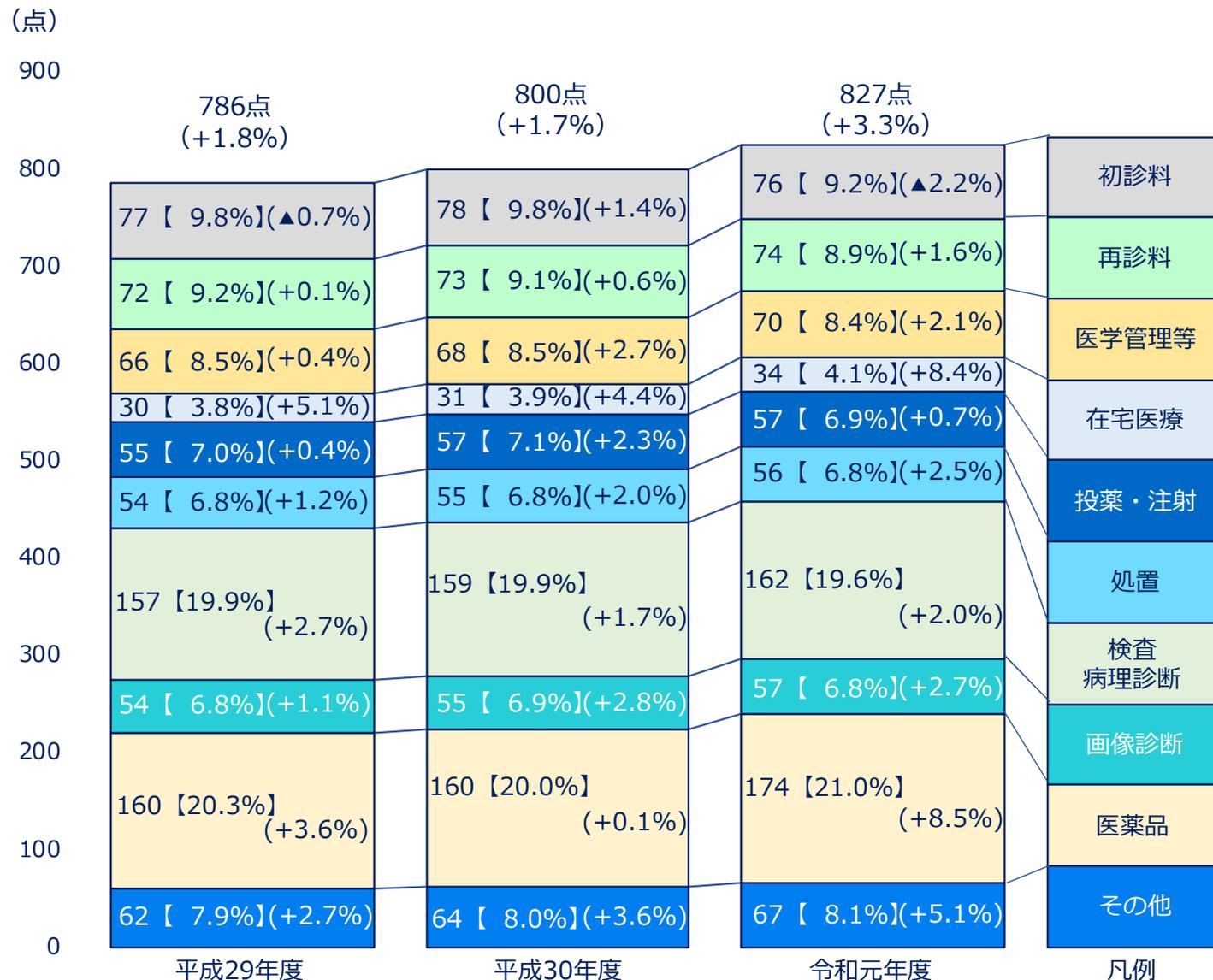
【医薬品】の増加
 キイトルーダ注射薬（非小細胞肺癌等）、テセントリク注射薬（非小細胞肺癌等）の効能効果の追加に伴う算定回数増加の影響

注）構成割合の3%未満の診療項目は「その他」に集計。ただし、平成30年度で構成割合が大きく低下した短期滞在手術は除く。

診療行為大分類の推移 ～電子レセプト 1日当たり点数～

医科入院外

【 】内の数値は構成割合
（ ）内の数値は対前年度増減率



令和元年度における主な増減要因

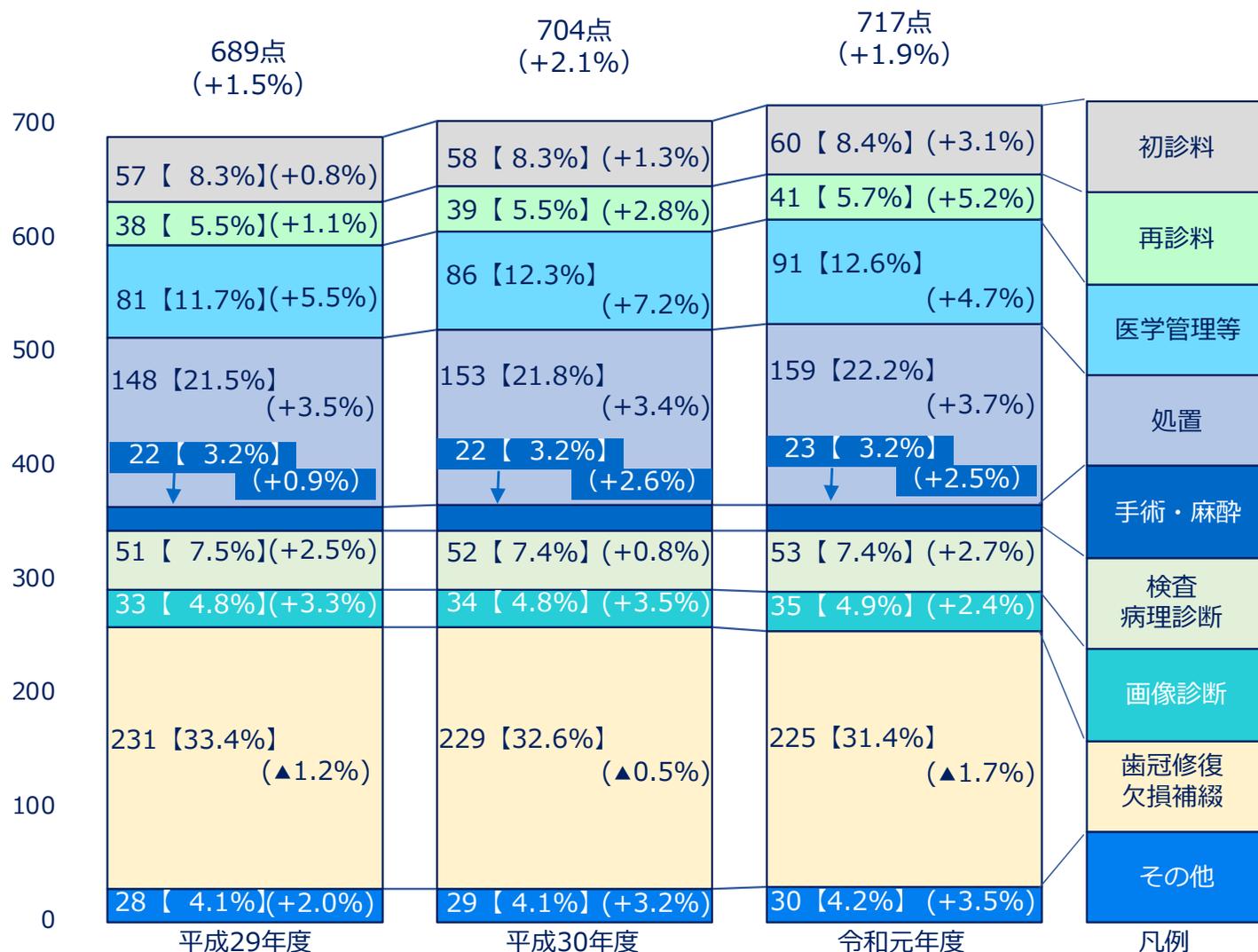
- 【初診料】の減少
インフルエンザ及び3月診療分の算定件数減少の影響
- 【再診料】の増加
令和元年10月の消費税率引上げに伴う所定点数引上げの影響（再診料72点→73点）
- 【在宅医療】の増加
全体的な算定回数増加の影響
- 【医薬品】の増加
 - キイトルーダ注射薬、テセントリク注射薬の効能効果の追加に伴う算定回数増加の影響
 - イミフィンジ注射薬（非小細胞肺癌、平成30年8月薬価収載）、パージェタ注射薬（乳癌）の算定回数増加の影響
 - 血友病治療薬における既存医薬品からより高額なヘムライブラ注射薬への変更による影響

注) 構成割合の3%未満の診療項目は「その他」に集計。

診療行為大分類の推移 ～電子レセプト 1日当たり点数～

歯科

(点)



【 】内の数値は構成割合
 ()内の数値は対前年度増減率

令和元年度における主な増減要因

- 【初診料】 【再診料】 の増加
 - 平成30年度診療報酬改定により院内感染防止対策に関する施設基準の届出の有無により初診料、再診料の所定点数が区分された。
 - 令和元年度の算定回数を見ると初診料、再診料共に届出ありが大部分を占めている。
 - 届出ありについては平成30年10月、令和元年10月共に所定点数が引き上げられたことによる

診療行為		平成30年度		令和元年度		算定回数 (万回)
		所定点数				
		4月 ～9月	10月 ～3月	4月 ～9月	10月 ～3月	
初診料	届出あり	234点	237点	251点		4,722
	届出なし	234点	226点	240点		104
再診料	届出あり	45点	48点	51点		15,768
	届出なし	45点	41点	44点		334

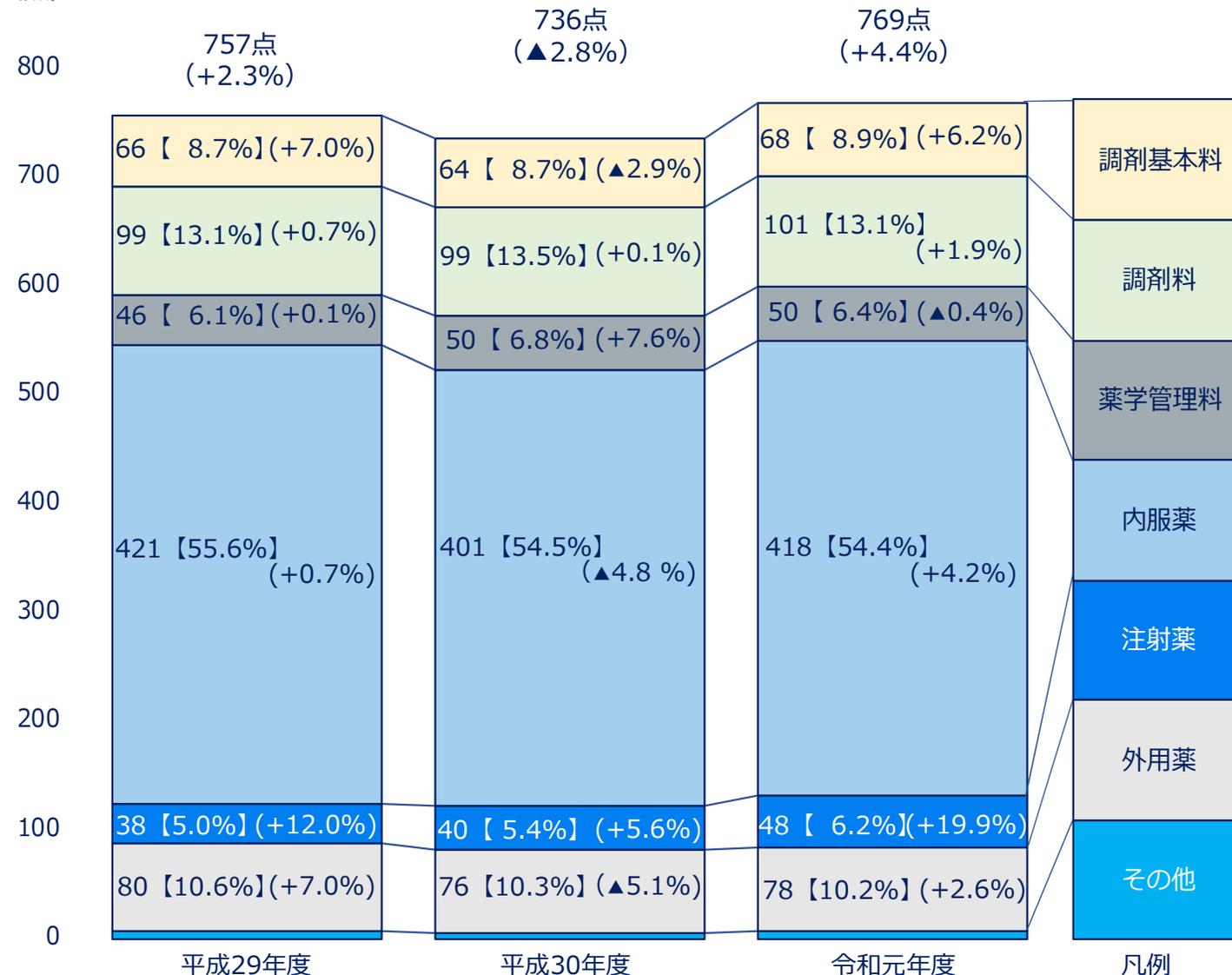
※届出は院内感染防止対策に関する施設基準に対するもの

注) 構成割合の3%未満の診療項目は「その他」に集計。

診療行為大分類の推移 ～電子レセプト 1日当たり点数～

調剤

(点)



【 】内の数値は構成割合
 ()内の数値は対前年度増減率

令和元年度における主な増減要因

全体的な増加
 院外処方進展の影響

【内服薬】の増加
 タグリッソ内服薬（非小細胞肺癌）、シダキュアスギ内服薬（スギ花粉症）の算定回数増加の影響

【注射薬】の増加

- 在宅自己注射薬における院外処方進展の影響
- 令和元年5月診療分以降デュピクセント注射薬（アトピー性皮膚炎等）の院外処方が可能になった影響
- 血友病治療薬における既存医薬品からより高額なヘムライブラ注射薬への変更による影響

注) 構成割合の3%未満の診療項目は「その他」に集計。